

汚泥R、高品質時代へ

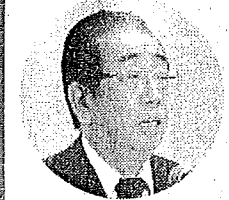
日本リ・ソイル工業協同組合

通常総会で理事長交代

日本リ・ソイル工業協同組合（事務局・仙台市）は5月25日、東京都文京区の東京ドームホテルで2017年度（第12期）通常総会を開催した。建設汚泥や発生土を独自の固化材などとの攪拌・混練を軸とする造粒固化システムで、良質の改良土（ユニ・ソイル）を

得るリサイクル業者の団体。総会では16年度事業報告や17年度事業計画とともに、5年間のNETIS継続登録が認められたユニ・ソイルのNETIS表示に係る基準（案）なども審議した。

建設汚泥のリサイクルの在り方が転換期を迎える中で、将来を見据えていっそうの高技術・高品質の製品生産を担っていくための基盤づくりに踏み出した。



荒金憲一・新理事長



熊木繁雄・前理事長

また、総会では11年にわたり組合をけん引してきた熊木繁雄理事長が退任し、新理事長に荒金憲一氏が選出された。熊木氏は最高顧問として引き続き組合

を支援していく。

熊木前理事長は退任のあいさつで「宮城県中小企業組合中央会の絶大な協力を得て、工藤専務理事が中心的な働きをしてくれて、11年前に）組合発足の運びとなり、環境省の認定も受けて大変心強かった。東日本大震災後は艱難辛苦を重ねてきた。市場開発や技術開発などユニ・ソイルに携わること自体の投資が大きく、利益が伴っていないとは言えないが、人材と設備に先行投資し、

会員数も増えていい形でここまで来れた。いざれ高品質・高技術のリサイクルが社会に定着する時代が来る。荒金新理事長は会社経営や事業の考え方が、私と似ていると感じている」と思いを語った。

また、荒金新理事長は就任あいさつで「引き受けた以上、やるべきことはやる。熊木理事長からこの事業を教えてもらった恩がある。一から勉強を重ねて業界発展に尽くしたい」と述べている。